

あなたとヒグマの共存のために

北海道の多くの地域はヒグマの生息地です。



出没地域に住む人に…
山菜採りに行く人に…
キャンプをする人に…
登山が好きな人に…
溪流釣りを楽しむ人に…

北海道環境生活部環境局自然環境課

クマとの事故をなくすには・・・

まず落ちついて行動して下さい。

ヒグマに出会わないことです。

● ヒグマの出没情報に気をつけましょう。

山に入る前には新聞やテレビあるいは地元の人に聞くなどクマの情報に気をつけましょう。

● 音を出しながら歩きましょう。

山に単独で入らない。しゃべりながら歩く。鈴をつける。手をたたく。大声で「人が来ていますよ」などと声をかける。

情報BOX

クマの聴覚、嗅覚はヒトよりもはるかに鋭いものです。



● 薄暗い時には行動しないようにしましょう。

● クマのフンや足跡、食べた跡を見つけたらすぐに引き返しましょう。

これらの跡は慣れないとなかなかわからないものですが、下図のような足跡・フンや草の食いちぎられた跡などをみておかしいと思ったら引き返すことです。



それでもヒグマに出会ってしまったら・・・

● 遠くにクマを見つけたらー。

落ちついて状況を判断して下さい。クマがこちらに気づいていないなら、その場を静かに立ち去りましょう。

● クマがこちらに気づいていたらー。

クマの移動する方向を見定めながら、静かに立ち去りましょう。

あわてることは事故につながります。まず落ちつくことです。普通にしていれば、ほとんどのクマは立ち去るはずですが。

● それでも近づいてきたらー。

クマから視線をはなさないで下さい。そしてクマの動きを見ながらゆっくりと後退して下さい。

この時、リュックや服など持ち物をそっと置くとクマの気を引いて時間をかせげます。



※これらの回収は自殺行為です。

● 大声、走って逃げる、石投げは自殺行為です。

クマを刺激しないことです。
木々に登ってやりすごした例もあります。ま
ず落ちついて状況を判断することです。

子グマを持ち
帰ろうとする
のは自殺行為
です…

● 子グマの後ろに必ず親グマあり!

子グマを見つけたら絶対に近づかないこと
です。すみやかに立ち去って下さい。不用意に近
づくとも母グマの攻撃を受けます。

なお、子グマは生後1年半～2年半まで、大
きさにして大型犬以上になるまで、母親といっ
しょに行動します。

これで完全と
いう方法はあ
りませんが…

● 襲いかかられたら…

北米では、首の後ろを手で覆い、地面に伏し
て、頸部、後頭部への致命傷を防ぐ方法を勧め
ています。道内の死亡事故でもこの部分が致命
傷となっている事例がみられます。

また、クマ撃退スプレーが、ある程度有効で
あることも知られています。

一番大事なことは クマに出会わないことです。

情報
BOX

● ヒグマの食物 ●

ヒグマは主に草や果実、木の実などの植
物質のものを食べます。

春はフキなどの草木類、秋はドングリ、
ヤマブドウ、コクワ等の木の实をたくさん
食べます。

危険なヒグマを 作らないために。

● ゴミはヒグマを呼びよせます。

残飯、生ゴミなどはクマにとっておいしいご
ちそうです。

いったんゴミの味を覚えると、それを目当
てにゴミ捨て場に繰り返し出てきます。また、人
そのものにも近づくようになります。

普通のクマはクマの方で人間をさけるもの
です。それをゴミによって引き寄せられることで
問題がおきます。

あなたがクマの被害にあわないようにするた
めに、そしてクマが人間に近付いて捕獲されな
いようにするために、ゴミの後始末はきちんと
しましょう。野外に放置したり、埋めたりする
ことは危険です。

実際に平成11年～21年度に渡島半島地域
で銃器によって捕獲されたヒグマ586個体の
胃袋を分析した結果、7.0%に当たる42個
体からゴミ袋が出現しました。



ヒグマに荒らされたゴミバケツ

情報
BOX

違法な水産廃棄物へ、5 km離れた
地点からクマが1日でやって来て、
20日間居ついたことがあります。
(上ノ国町での調査から)

あなたの不注意によるゴミが、あなたと
クマを危険におとし入れるのです。

出沒地域に住む人に…

ヒグマは時として危険な生き物になります。
いつものことだと油断しがちですが、事故は家のすぐ
そばでも起きてしまいます。
家庭ゴミや畜・水産廃棄物はクマを強く引きつけます。
犬の放し飼いや山で放して連れて歩くのは危険です。
吠える犬はクマを興奮させます。

山菜採りに行く人に…

クマも山菜を食べにきています。あなたはクマの餌場
に入っています。

あなたが被害にあう確率の最も高い人です。下ばかり向
いていないで、時には周囲に注意をはらいましょう。単
独で入ることなく、おしゃべりしたり、音をたてること
を忘れないように。また、クマの痕跡にも気をつけま
しょう。

キャンプをする人に…

クマの痕跡のあるところでキャンプをしないように
しましょう。クマを引き寄せるゴミは持ち帰りましょ
う。ゴミを埋めてもクマはすぐに探し出します。

登山が好きな人に…

クマの生活圏に入ることになりますから、どこにでもク
マがいると考えて行動して下さい。早朝、日没の行動
はクマと出会う確率が高くなります。山道で出会った
らお互いにクマの情報交換をしましょう。ゴミは絶対
に残さないようにしましょう。ゴミは後から来た人
を危険におとしれます。

溪流釣りを楽しむ人に…

狭い溪流では、水音や風向きでクマも人もお互いに
気づきにくくなってしまいます。常に周囲に気をくば
りましょう。

ヒグマの生活と 人間活動

